

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071300729		
法人名	株式会社 西日本介護サービス		
事業所名	グループホーム ウィズライフ別府		
所在地	福岡市城南区別府3丁目7-18		
自己評価作成日	平成28年11月28日	評価結果確定日	平成29年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

- ・毎日を楽しく過ごしていただけるよう雰囲気作りに努めている。1、2階合同レクの機会を作り、さらに楽しく充実した日々を送っていただけるよう取り組んでいる。
- ・地域の一員として、地域の方との交流を大切にし、地域に溶け込めるよう活動に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ウィズライフ別府」は国道から一本入った住宅街の一角にあり、地下鉄別府駅からも近く、アクセスの良い立地の2ユニット型グループホームである。開設から12年が経ち、入居者の入れ替わりも出始め、ここでの最期を迎える方も支援している。最近では入居者に元気な方も増えたことで作業や掃除、料理などに一緒に取り組んだり、ユニット合同のレクも楽しんでいる。法人の新サービスとして、事業所間で連携した「24hサービス」の実施をはじめ、各事業所の近隣地域の方にゴミ出しなどのちょっとした介護保険外サービス提供をしており、当事業所でも地域の方の利用があり喜ばれている。地域から介護に関する相談を頂くこともあり、具体的に応えられることで信頼関係を築いている。今後も地域を支える事業所としての活躍が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価(桃)(椿)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく最後まで」を理念に掲げており、新人職員へは入社日に説明を行い、会議やミーティングの前に全員で唱和している。	開設当初からある法人の企業理念、行動規範と、グループホームで共通の理念があり、それぞれを毎月の会議やミーティングで唱和している。事務室やロッカールーム、玄関に掲示され、理念をもとにして年間の個人目標を定め、事業年度末に振り返りも行う。目標設定や日頃の話の中で浸透も進んできている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者と一緒に地域清掃、地域行事に参加している。 ・月一回の食進会に職員が参加し交流を深めている。 ・地域の総会へ職員が参加し、地域の方との交流を深めている。 	当初から自治会に加入しており、自治活動や、公民館での催し、廃品回収などの地域活動には入居者も一緒に参加している。自治会長や民生委員に入居者も馴染みが出来てきた。地元の中学校からは職場体験の受け入れでの交流がある。地域の情報は案内をもらったり、挨拶の際に口頭で教えてもらうこともある。周年祭や餅つきは地域にも開放し、地域掲示板での掲示や、ポスティングなどでも案内し地域の方に手伝ってもらったこともある。	職員に認知症サポーター養成講座を受講したものがおり、今後は地域での認知症啓もうや情報発信の取り組みが検討されていくことにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者と一緒に地域清掃、地域行事に参加している。 ・夏祭りなど地域行事に参加したり、ホーム行事に参加していただき、理解を深めていただけるよう取り組んでいる。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームの活動報告、取り組み状況などお伝えしている。 ・地域の取り組みなども教えていただきサービス向上に努めている。 	2ヶ月ごとに開催し、自治会長、民生委員が参加され、家族は全員に案内するが参加は少ない。入居者も場合によっては参加することもある。事業所の活動報告のほか、地域情報や状況なども積極的に頂いている。法人の24hサービスの案内や、議事録は所内掲示と、案内時の配布、家族への郵送で報告している。地域の別事業所とも相互参加の申し入れ、案内をしているが直近の参加はなかった。	運営推進会議中でも認知症の勉強会を行うことも検討されている。また家族の参加を増やすために土日開催の検討なども引き続きなされることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館行事へ参加したり民生委員さんと関わりを持ち、情報交換を行い協力できるように取り組んでいる。 	城南区内の地域密着部会が3ヶ月ごとに開催があり、その際に区の担当者も参加され、相談することも出来る。事業所の指定更新も2回しており、何か必要な際には電話などで相談している。区の認知症110番の登録を検討している。新たに始めた「24hサービス」の案内もしており、地域包括から紹介も頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で得た知識を基に毎月のミーティングで抑制廃止について確認をしている。 ・玄関は、夜間以外は施錠しておらず気軽に出入りできる環境を整えている。 	日中の玄関施錠はなく、センサーによって管理している。原則的に拘束行為をしないようになっているが、危険防止にやむを得ない場合のみ、説明、同意、支援記録、見直しの上、最低限の対応をすることがある。拘束に関しての外部研修、内部での伝達研修、ミーティングなどで学習しスピーチロックなどに関しても日頃から注意している。	

H28自己・外部評価表(ウイズライフ別府)

自己	外部	項目	自己評価(桃)(椿)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・内部研修、勉強会で学ぶ機会を設けており、勉強会に参加した職員から他職員へ伝達している。 ・毎月のミーティングでリスクマネジメントについて確認し防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・内部研修で学べる機会を設けている。 ・入居契約の際に成年後見制度の説明を行っている。	成年後見制度を利用されている方が4名おり、入居後に利用開始された方もいる。契約時に説明し必要であればパンフレットもお渡ししている。現状制度利用される方がいることで、やり取りを通して、職員も制度理解を進めている。内外の研修参加、伝達もあり、事業所として一般的な知識を習得している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居前に見学をしていただき相談等をお受けし、説明を行っている。体験入居をしていただいた後、契約に際した説明を再度行い、ご理解と納得を図るようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会やサービス担当者会議などで御意見をいただき、改善に向け職員間で話し合い、結果を報告している。 ・苦情相談窓口として、施設の窓口、公的窓口を重要事項説明書に明記し説明している。	家族の面会も多く、身寄りのない方も後見人が来られ、その際に直接お話も伺っている。職員評価を聞く個別アンケートと家族アンケートがあり、家族アンケートは法人から発送、回収して結果を集計する。「生活状況報告レポート」を各担当が個別に毎月作成、報告をしており、会社としてのお便りも毎月ある。毎年親睦を目的とした懇親会もあり、周年祭と同日に開催、今年は8割強の家族が参加された。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日々の申し送り、ミーティングで意見や提案を聞く機会を設けている。 ・定期的に職員面談を行っており、意見や提案を聞き反映させている。	1日2回の申し送り、毎月のミーティングがあり、原則正社員は全員参加でパート職員はなるべく参加してもらうようにしている。最近では入居者の状況とご家族の希望のズレに関して話し合っ対応した。年2回の定期面談の中で希望すれば関連施設上長との面談もあり、意見や提案の機会を設けており、日頃も気軽に相談できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年一回、自己評価を行い人事制度に基づき面談を実施している。 ・各自が年間目標をたて、達成に向け一緒に考えアドバイスを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・採用にあたっては性別、年齢等関係なく一日体験してもらいホームの様子を見てもらっている。 ・職員の得意とすることを活かした取り組みを行い、働きやすい環境作りに努めている。	新卒採用にも取り組み職員は20歳～60歳代までおり、男女それぞれが配置されている。年齢や経験に関わらずお互いに注意もしあいながら、ケアの向上に努めている。無資格での入職でも採用後関連学校での資格取得支援がなされている。勤務時間の割合も、分担してそれぞれで協力しながら負担の無いように配慮して柔軟に対応している。研修案内や参加も希望することが出来、入社年度で段階を追った職員教育がされている。	

H28自己・外部評価表(ウィズライフ別府)

自己	外部	項目	自己評価(桃)(椿)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・内部研修にて尊厳について確認を行っている。 ・申し送り、ミーティングや認知症ケア会議等で話し合いの場を設け、ご利用者の気持ちの理解に努め取り組んでいる。	入職時の研修では「介護従事者に求められる人権理解」の講義があり、現任者には実践研修として高齢者理解に関する研修を行っている。内部研修が主で、今年度は外部研修の参加はなかった。外部研修参加時にはミーティングの際などに伝達も行う。障害者雇用も進めており、法人としての取り組みがなされている。	人権に関しての外部研修の参加や、関連講義があった際の資料回覧、伝達などを行うことで、他の研修と一体的な人権教育、啓発活動に取り組んではどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・日々の様子や面談を行い一人一人のケアの実際と力量を把握している。 ・研修に関しては希望をとり学べる機会を作っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・外部研修や他事業所の行事や情報交換会などに参加し機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご入居前にご本人の状況を確認させていただいたり、体験入居やショートステイを通してご本人の不安や要望をお聞きし良い信頼関係が築けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の状況や困られていることなどを伺いながら、ホームの指針をお伝えし信頼頂けるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・見学、相談時に必要とされている支援を見極め、必要な情報提供やサービスに努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人の生活歴、生活リズムを大切に、出来ることはしていただくなど自立支援を意識し、助け合いながら生活を共にする関係作りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会やサービス担当者会議などの際に近況報告を行い、ご意見等をいただいている。 ご家族と一緒にご本人を支えていける関係作りに努めている。		

H28自己・外部評価表(ウィズライフ別府)

自己	外部	項目	自己評価(桃)(椿)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで大切にされてきた方にも来訪していただいたり、馴染みの場所への外出ができるよう支援に努めている。 ・ご友人が来訪された際にも日々の様子を伝え関係が継続できるよう支援している。 	家族の面会のほか、知人や友人の来訪もあり、概ね元の関係を継続している。家族が不安な際には職員も同行して、自宅に帰ったり、お花見に行ったりと個別ケアでの対応もしている。最近はお墓参りにお連れした方もいた。花や野菜作りが好きだった方に菜園のお世話をしてもらい好きだったことに取り組んでもらうこともある。お手紙をもらって御礼の電話の代行もしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・場所の工夫、職員が間に入るなど、ご利用者同士が良い関係性を保てるよう支援している。 ・ユニット合同の行事を増やし交流が図れるよう支援している。 		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの案内などをし、いつでも立ち寄れる関係作りを実施している。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の関わりからニーズを見つけ出し、アセスメントをとり、ご本人の希望とされる生活が送れるよう努めている。 	アセスメントは独自様式を使っており、昨年からは電子化を進め、タブレットで管理し、PC内にデータとして保管するようになった。入居者ごとに担当を決め、アセスメントなども担当が行い、ケアマネが監修している。半年から一年で見直しも行き、状況の変化があった際には随時気づいた職員が追記し、ケアマネがデータに打ち直している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人、ご家族から話を伺い把握に努めている。新たに得た情報も追加し情報共有に努めている。 		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の関わりの中でアセスメントをとり、情報交換に努め総合的に把握できるように努めている。 		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人、ご家族の希望、意向をお聞きしやりたい事、出来ることを見つけ出しながら介護計画を作成している。 	記録の電子化により業務が効率化され、記録にかかる時間も短縮された。職員1人が1~2名を担当し、アセスメント、通信、プランの素案作成、モニタリングを受け持ち、ケアマネが補佐する。3ヶ月にプランの見直しを行い、ミーティングの際に参加職員で話し合っている。6ヶ月見直しの担当者会議時には家族にも参加してもらい要望を聞き取る。見直しの際は医師や看護師の意見、アドバイスも頂いている。	

H28自己・外部評価表(ウズライフ別府)

自己	外部	項目	自己評価(桃)(椿)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の状態を記録に残し気づきなどを申し送り確認検討している。情報は職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・状態に変化があった場合には、その時々ニーズに合わせて対応をしている。 ・介護保険以外のサービスにも対応出来るよう取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・廃品回収、公園清掃などに参加し活動を行っている。 ・毎年、消防署の協力のもと避難訓練、救命講習をご利用者を交え実施している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人、ご家族の希望にてかかりつけ医は其々である。情報共有を行い適切な受診へと繋げている。	元々のかかりつけ医を継続できるが、月2回の往診が出来るため、事業所の提携医に換えられる方も多い。複数科目で提携しているが、専門科には家族支援で通院することも出来る。法人内に訪問看護もあり、毎週の健康管理も受けられている。毎月の報告レポートの中に健康状態の項目もあり、随時の電話と書面で情報共有をしている。家族介助の際は情報提供することもある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・医療連携室による健康観察の際に日頃の状況を報告し助言をいただいている。 ・電子カルテを活用し情報共有に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院された際も情報収集に努め、主治医への報告、助言をもとに早期退院に向け対応している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・サービス担当者会議で終末期の意向を確認している。 ・終末期に際して重度化指針をご家族へ説明、確認、同意書を交わしチームで情報共有しながら支援に取り組んでいる。	希望があれば、最期まで支援する方針で、これまでに何名かの対応を行ってきた。看取りに対応する際は職員と勉強会を行い、看取りプランも作成し、事後の対応結果に関してもカンファレンスを行う。対応時には医師の立会いの下同意を頂いている。年間計画の中でターミナルケアについての研修も計画的に行っている。提携医は24時間対応しており、グループに訪問看護もあるため、支援体制が整っている。	

H28自己・外部評価表(ウィズライフ別府)

自己	外部	項目	自己評価(桃)(椿)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・事業所にマニュアルを設置し、急変、事故発生に備えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回、避難訓練を実施。搬送方法の確認も行っている。 ・地域の避難訓練にも参加し協力体制を築いている。	年2回の訓練とも消防計画を出しており、1～2回は消防署の立会いもある。夜間想定を基本としており、毎回新人を中心に担当者も変えて取り組んでいる。避難所にもなっている隣の公園への避難訓練にも参加している。自治会にも訓練案内をしているがまだ参加には至っていない。民生委員とも口頭で協力の依頼をしている。AED設置と備蓄物は水と非常食、個別情報を整理している。調理台もガスからIHに変更されており、リスク軽減されている。	地域の防災担当者が変わったこともあり、事業所での訓練参加に地域の方の参加が実現されることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・日々のケアの中で職員間で気づいたことはお互い声を掛け合い注意している。 ・ミーティング、認知症ケア会議等で抑制、虐待について振り返りを行い実践に繋げている。	プライバシー保護や接遇に関しては、特に注意して取り組んでおり、内部研修が年に何回も行われる。写真利用を含めた個人情報の利用同意書を取り交わし、掲示なども合意が取れたものに留めている。入居者との親しみと入れ合いの違いを念頭に、お互いに注意しながら敬意を払った対応を心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日々の生活の中でご利用者に自己決定を促している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ケアプランに沿って支援しているが、ご利用者と都度話し、確認しながらすすめている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その方らしいお洒落や身だしなみが出来るよう声かけをしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・一緒に出来る方は準備や盛り付け、味見などをしている。 ・月1回のディナーパーティーを実施。職員が同じ席で食事をし、会話や音楽などで雰囲気作りを行っている。	法人の管理栄養士がメニュー作成と食材を手配し、昼と夕方の食事は専任の職員が調理し、朝や日曜の食事はスタッフで行う。準備や調理など出来ることは入居者にも手伝ってもらっている。月1回のディナーの際は事業所独自でメニューを作り調理と一緒に楽しむこともある。職員も同じものを同じ時間で会話しながら食事している。誕生日の際もケーキのデコレーションをしたり、最近では饅頭づくりを楽しんでいる。	

H28自己・外部評価表(ウズライフ別府)

自己	外部	項目	自己評価(桃)(椿)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・管理栄養士による献立で栄養バランスを考えている。 ・全利用者、食事、水分量の把握に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアを実施。 ・歯科往診で口腔ケアのアドバイスをいただいている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄表を作成し、一人一人の排泄パターンの把握に努めている。 ・出来るだけトイレで排泄できるよう表情、言動などに留意し声かけを行っている。	必要な方のみ一人一人個別の排泄チェック表があり、24時間単位で排泄状況を記録している。水分摂取やオムツの残量チェックも兼ねており、便秘の期間の抜けの無いようにも確認する。自立した方は自分でしてもらい、失敗が見られる際には誘導時間を変えるなどの対応も行う。介助時も排泄時は席を外すなど羞恥心に配慮した対応を心がけている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・提供する飲み物の工夫、腹部マッサージ、散歩などに取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・ご利用者の希望に合わせ入浴支援を行っている。 ・季節湯や入浴剤などを使用し心地よく入浴できるよう工夫している。	家庭用のユニットバスの造りで、浴室も三方向介助できる中央に設置され、2人介助できる広さがあり、2名での入浴もできる。基本的には一人週3回の入浴で、午前から夕方まで対応するが、夕食後の希望があればその対応もしている。マイに準備をしているため、毎日の入浴も可能である。拒まれた際には担当を変えたり、時間を変えたりして対応する。お湯も毎回変えており常に清潔を保っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活習慣や体調の把握に努め、柔軟に対応し安心していただけるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・ファイルに薬の詳細を綴り確認できるようにしている。 ・与薬時は必ず複数の職員で名前、日付、時間の確認を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活歴やお聞きした情報を日々の中に取り入れ張り合いのある生活が遅れるよう支援している。 ・歌や体操、散歩などで気分転換できるよう支援している。		

H28自己・外部評価表(ウィズライフ別府)

自己	外部	項目	自己評価(桃)(椿)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご家族の協力をいただき外出などを行っている。 ・散歩や買い物、他事業所と合同での外出など普段行けない所への外出支援にも取り組んでいる。	法人の関連事業所との合同で外出行事を企画しており、大型車を使ってショッピングセンターやイルミネーション見物、花見など隔月程度で外出している。外食に行く機会も多く、個別や少人数、家族と一緒に等で外出している。5分程度の所に公園もあり、車いすの方も同じように外出機会を持っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物の際、職員と協力して支払う事で支払いの実感を感じていただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・事前にご家族の都合をお聞きし、ご本人希望時には連絡をとれる体制をとっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・室温調整、臭いに気を付け居心地の良い環境作りに努めている。 ・家具等の位置などご利用者の要望に合わせ移動し気持ちよくくつろいでいただける環境を作っている。	共用スペースは次亜塩素酸の加湿器で加湿と感染予防に取り組んでいる。リビングのピアノで職員が演奏、合唱することもあり、和やかに過ごしている。ソファのスペースで過ごすことも多く、それぞれのペースでゆったりと過ごせる。飾りつけも入居者と一緒に楽しみ、調査時はクリスマスの飾りを一緒に行われていた。過度に掲示をしておちゃおちゃしないよう配慮もしている。浴室の脱衣場にはトイレも設置され、急な利用にも対応できる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビング内、玄関とソファを配置し、一人でゆっくり過ごされたり、仲の良いご利用者同士でくつろいでいただける環境を作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室内には使い慣れた家具やご家族の写真など思い思いのものを飾られ、居心地良く過ごしていただけるようにしている。	入居時に家族と話して、スペースを考えながらタンスやソファ、椅子、仏壇、テレビなどを持ち込んでいる。介護ベッドとドア上部の棚が備え付け、他は自由に持ち込める。居室はリビングから一本伸びた廊下沿いに配置され、居室の見守りもしやすい。季節物の入れ替えは事業所や家族ですること、部屋もすっきりと整理されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室前には表札を使用し、ご自分の部屋だと分かるようにしている。		